マイルストーン開示に係る事業計画の修正について
（平成 23 年 12 月期～平成 25 年 12 月期）

平成 23 年 12 月 28 日

上場会社名　株式会社ﾃﾞ・ｳｴｽﾀﾝ・ｾﾗﾋﾟﾃｸｽ研究所　（コード番号：４５７６　ＪＱ）
（ＵＲＬ　http://www.dwti.co.jp/　）
問 合 せ 先　代表取締役社長　日高　有一
経営企画室長　今井　清子　ＴＥＬ：（０５２）２１８ ― ８７８５

本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」における平成 23 年 12 月期の業績予想の修正に伴い、マイルストーン開示に係る事業計画を以下の通り修正いたします。

今回の事業計画の修正につきましては、平成 23 年 12 月期及び平成 24 年 12 月期に係る事業計画のみ修正を行います。

１．今後の業績目標（平成 23 年 12 月期～平成 25 年 12 月期）

（１）売上・損益目標

【修正前】

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成 23 年 12 月期　（計画）	132	△324	△323	△325
平成 24 年 12 月期　（目標）	0	△409	△409	△411
平成 25 年 12 月期　（目標）	30	△386	△386	△388

【修正後】

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成 23 年 12 月期　（計画）	20	△353	△356	△357
平成 24 年 12 月期　（目標）	112	△350	△350	△352
平成 25 年 12 月期　（目標）	30	△386	△386	△388

（注）１．平成 23 年 12 月期は、平成 23 年 12 月 28 日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」における修正値を記載しております。
２．修正箇所は__を付して表示しております。

【事業計画修正の理由】

平成 23 年 12 月期において、ライセンスアウト先の興和株式会社により抗血小板剤(注1)K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験の準備が進められましたが、当該臨床試験は平成 24 年 12 月期に開始される見込みとなったことから、本件にかかるマイルストーン収入の発生も平成 24 年 12 月期と見込まれるため、平成 23 年 12 月期及び平成 24 年 12 月期の業績予想を修正することといたしました。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

なお、K-134の国内後期第Ⅱ相臨床試験は、平成23年12月2日に公表いたしました、「抗血小板剤「K-134」の国内後期第Ⅱ相臨床試験登録のお知らせ」のとおり、ライセンスアウト先の興和株式会社が、財団法人日本医薬情報センターが運営する臨床試験情報を公開するためのウェブサイト「臨床試験情報」(http://www.clinicaltrials.jp)を通じ、国内後期第Ⅱ相臨床試験情報を公表しております。興和株式会社により、本公表内容に則って後期第Ⅱ相臨床試験が開始される見込みです。

また、新規開発品として開発を進めてまいりました新規緑内障治療剤(注2)のライセンスアウトを計画し、平成23年12月期末までの契約締結を目標として交渉を進めてまいりましたが、当該年度中の契約締結には至らなかったため、引き続き平成24年12月期のライセンスアウト契約締結を目標に活動を進めます。なお、当該ライセンスアウト契約締結によるフロントマネー収入金額は金額の見積が困難なため、平成23年12月期の業績予想に見込んでいないことから、この度の業績予想の修正には影響はありません。

（2）各事業年度における売上・損益目標の説明（修正部分のみ記載）

【修正前】

① 平成23年12月期

ライセンスアウト済パイプラインの開発進展が前提条件となり、マイルストーン収入による売上高を見込んでおります。また、平成23年12月期において新規開発品として開発中の新規緑内障治療剤につきライセンスアウトを計画しておりますが、ライセンスアウト契約締結によるフロントマネー収入の金額を現時点で見積もることが困難なため、売上高には計上しておりません。

その結果、売上高は132百万円、営業損失は新規開発品の研究開発費計上等により、324百万円、経常損失は323百万円、当期純損失は325百万円を見込んでおります。

売上高が前回目標値から180百万円減少しておりますのは、新規緑内障治療剤のライセンスアウト時期並びに開発計画の見直しに伴うものです。営業利益において、前回目標値から184百万円損失が拡大しておりますが、主に上記売上高の減少によるものです。これにより、経常損失及び当期純損失も前回目標値から184百万円損失が拡大しております。

② 平成24年12月期

ライセンスアウト済パイプラインの開発進展を計画しておりますが、新たなマイルストーン収入の発生が見込まれないことから、売上高は見込んでおりません。営業損失は新規開発品の研究開発費計上等により、409百万円、経常損失は409百万円、当期純損失は411百万円を見込んでおります。

売上高が前回目標値から180百万円減少しておりますのは、新規緑内障治療剤の開発計画の見直しに伴うものです。営業利益において、前回目標値から161百万円損失が拡大しておりますが、主に上記売上高の減少によるものです。これにより、経常損失及び当期純損失も前回目標値から162百万円損失が拡大しております。

【修正後】

① 平成23年12月期

ライセンスアウト済パイプラインの緑内障治療剤K-115 の国内第Ⅲ相臨床試験が開始されたことにより、マイルストーン収入による売上高20百万円を計上する予定です。

営業損失は新規開発品の研究開発費計上等により、353 百万円、経常損失は 356 百万円、当期純損失は357百万円を見込んでおります。

売上高が前回計画値から 112 百万円減少しておりますのは、K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験が平成24年12月期に開始される見込みとなったことから、本件にかかるマイルストーン収入による売上高112百万円を平成24年12月期の計上に修正したことによるものです。それに伴い、営業損失において、前回計画値から28百万円損失が増加しておりますが、主に上記売上高の減少によるものです。これにより、経常損失及び当期純損失も前回計画値から32百万円損失が増加しております。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

② 平成 24 年 12 月期

ライセンスアウト済パイプラインの抗血小板剤K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験が平成 24 年 12 月期に開始される見込みであることから、本件にかかるマイルストーン収入による売上高 112 百万円を見込んでおります。なお、新規緑内障治療剤のライセンスアウトを計画しておりますが、ライセンスアウト契約締結によるフロントマネー収入の金額を現時点で見積もることが困難なため、売上高には計上しておりません。

営業損失は新規開発品の研究開発費計上等により、350 百万円、経常損失は 350 百万円、当期純損失は 352 百万円を見込んでおります。

売上高が前回目標値から 112 百万円増加しておりますのは、K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験が平成 24 年 12 月期に開始される見込みとなったことから、本件にかかるマイルストーン収入による売上高 112 百万円を平成 24 年 12 月期の計上に修正したことによるものです。それに伴い、営業損失において、前回目標値から 58 百万円損失が減少しておりますが、主に上記売上高の増加によるものです。これにより、経常損失及び当期純損失も前回目標値から 58 百万円損失が減少しております。

2．各事業年度の計画達成のための前提条件に係る事項（修正部分のみ記載）

（2）マイルストーン開示に係る事業計画の概要

【修正前】

○ 製薬会社へのライセンスアウトが完了している開発品に対し、その研究開発活動、ライセンス活動を支援し、その進捗を図ります。この結果として、K-134 は平成 23 年 12 月期において日本国内 PhaseⅡb・Ⅲの開始、K-115 は日本国内 PhaseⅡb・Ⅲの開始を計画しております。また、HMN-214 は、現在 PhaseⅡa 以降の臨床試験計画が未定であることから、これによる収益は今後の業績目標から除外しております。なお、K-134 及びK-115 の臨床試験計画は、ライセンスアウト先である製薬会社が想定する開発計画であり、実際の臨床試験の進捗とは相違する可能性があります。

○ 新規開発品プロジェクトから、平成 23 年 12 月期におきまして、新規緑内障治療剤のライセンスアウトを計画しております。

【修正後】

○ 製薬会社へのライセンスアウトが完了している開発品に対し、その研究開発活動、ライセンス活動を支援し、その進捗を図ります。この結果として、K-115 は平成 23 年 12 月期において日本国内 PhaseⅢを開始し、単剤及び他剤併用での臨床試験を行います。K-134 は平成 24 年 12 月期において日本国内 PhaseⅡb の開始を計画しております。また、HMN-214 は、現在 PhaseⅡa 以降の臨床試験計画が未定であることから、これによる収益は今後の業績目標から除外しております。なお、K-134 及びK-115 の臨床試験計画は、ライセンスアウト先である製薬会社が想定する開発計画であり、実際の臨床試験の進捗とは相違する可能性があります。

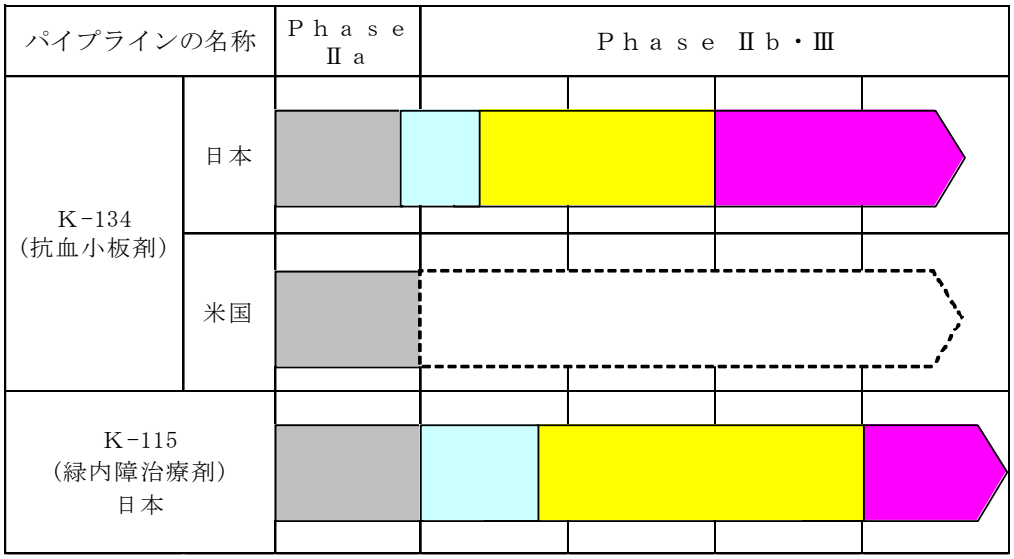
○ 新規開発品プロジェクトから、平成 24 年 12 月期におきまして、新規緑内障治療剤のライセンスアウトを計画しております。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

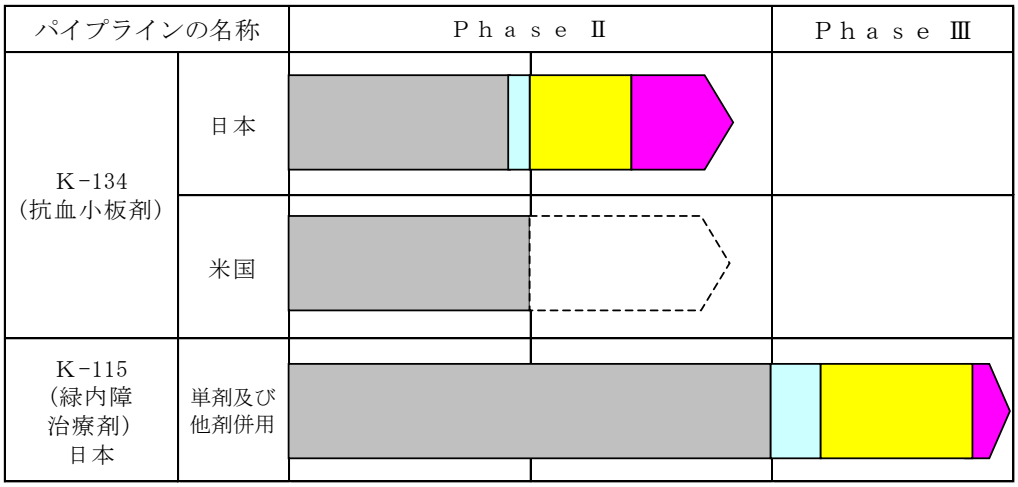
３．各パイプラインに係る開発計画（修正部分のみ記載）

○ライセンスアウト済パイプライン（現在、製薬会社で進行中の開発品）

【修正前】



【修正後】



（注１） は開発計画を表しており、 は平成 22 年 12 月期までの進捗、 は平成 23 年 12 月期、 は平成 24 年 12 月期、 は平成 25 年 12 月期における開発計画の到達目標を表しております。

（注２）K-134 について：K-134 の米国における Phase Ⅱb 以降の開発計画は、現時点においてライセンスアウト先である興和株式会社によって検討が進められており、その内容については未定となっていることから で表しております。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

○　新規開発品

【修正前】

・ 新規緑内障治療剤は平成 23 年 12 月期においてライセンスアウトを実施する計画です。なお、新規緑内障治療剤は、ライセンスアウト先により非臨床試験及び臨床試験が行われる見込であり、今後の開発計画につきましては、ライセンスアウト先において当該開発計画が作成された時点で開示する予定です。

【修正後】

・ 新規緑内障治療剤は平成 24 年 12 月期においてライセンスアウトを実施する計画です。なお、新規緑内障治療剤は、ライセンスアウト先により非臨床試験及び臨床試験が行われる見込であり、今後の開発計画につきましては、ライセンスアウト先において当該開発計画が作成された時点で開示する予定です。

（１）各事業年度における計画達成のための具体的施策の内容（修正部分のみ記載）

②新規開発品

新規緑内障治療剤

	【修正前】	【修正後】
課題と具体的施策	平成23年度中にライセンスアウトを実施すべく、国内外の複数の製薬会社等とライセンスアウト交渉中です。開発計画を順調に進めるために、早期のライセンスアウトを進めてまいります。	平成24年度中にライセンスアウトを実施すべく、国内外の複数の製薬会社等とライセンスアウト交渉中です。開発計画を順調に進めるために、早期のライセンスアウトを進めてまいります。

（２）各事業年度における計画達成のための前提条件（修正部分のみ記載）

【修正前】

・ 平成 23 年 12 月期（計画）の売上は、K-134、K-115 の開発進展が前提条件となります。なお、新規緑内障治療剤のライセンスアウトを計画しておりますが、ライセンスアウト契約締結によるフロントマネー収入の金額を現時点で見積もることが困難なため、売上高には計上しておりません。
・ 平成 24 年 12 月期（目標）の売上は見込んでおりません。ライセンスアウト済パイプラインの開発進展を計画しておりますが、新たなマイルストーン収入の発生は見込まれないことによるものです。

【修正後】

・ 平成 23 年 12 月期（計画）の売上高は、K-115 の開発進展を前提条件としており、当該条件である日本国内 PhaseⅢは、既に開始されております。
・ 平成 24 年 12 月期（目標）の売上高は、K-134 の日本国内 PhaseⅡb 開始が前提条件となります。なお、新規緑内障治療剤のライセンスアウトを計画しておりますが、ライセンスアウト契約締結によるフロントマネー収入の金額を現時点で見積もることが困難なため、売上高には計上しておりません。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

４．用語解説

（注１）　抗血小板剤

抗血小板剤とは血小板（血液の成分の 1 つで血液の凝固や止血に重要な役割を果たしている成分）が有する機能の１つである凝集機能を阻害（抑制）する薬です。

（注２）　緑内障治療剤

緑内障とは視神経（網膜を含む）障害で眼底に特異的な異常が発生し、視野が欠損（視野狭窄）していく病気です。緑内障治療剤とはその緑内障による視野の欠損を抑える若しくは改善させる薬です。

以上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含みますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。